

特発性肺線維症急性増悪に対するハイフローセラピーの検討 : 90 日予後および予後予測因子の探索

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

本研究は、特発性肺線維症急性増悪で入院となり、ハイフローセラピーを施行された患者さんの予後やハイフローセラピーの忍容性、呼吸管理中の経口摂取や会話能力の維持状況などの臨床的特徴を明らかにすることを目的としています。

特発性肺線維症は慢性進行性の線維化を特徴とする疾患であり、その経過中に年間 5～15%の頻度で発症する急性増悪は、院内死亡率が 50%を超える極めて重篤な病態です。特発性肺線維症急性増悪の重症呼吸不全の管理には非侵襲的陽圧換気やハイフローセラピーが用いられ、近年、ハイフローセラピーが選択される機会が増えます。しかし、その長期的な予後やその予後因子に関しては十分に検討されていません。

本研究では、過去の通常診療で得られた情報を使用するため、患者さんに新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2014 年 3 月～2025 年 9 月の間に当院で特発性肺線維症急性増悪の治療を受けられ、かつハイフローセラピーを受けられた患者さんを対象とします。ハイフローセラピーの前に既に人工呼吸による治療を受けられた患者さんは除外されます。

使用する試料・情報

患者背景（年齢、性別、基礎疾患の有無、喫煙歴など）、入院時情報（症状、バイタルサイン、検査データ、画像所見など）、臨床経過（治療内容、合併症、退院・転院日など）、および評価項目（90 日死亡、院内死亡、ハイフローセラピーの忍容性、経口摂取能力、会話能力年齢）などの情報を使用します。

使用開始予定日：2026 年 5 月 12 日

研究予定期間

2026 年 5 月 12 日～2026 年 12 月 31 日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

〔研究の情報管理責任者〕 呼吸器内科 一門和哉

〔当院の個人情報管理責任者〕 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係

が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 呼吸器内科 阿南圭祐

住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)